

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)		*	*
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・母の日の予約も早くから入っており、下見に来店する人も例年より多い。
		百貨店（販売促進担当）	・前年に開業した新規大型ショッピングセンターの影響が一巡する。
		コンビニ（店長）	・特に建設業関連客からの需要が力強い。店内調理のフライドフーズのようなプラス一品も好調である。この先も順調に継続していくと予想する。
		コンビニ（商品担当）	・夏にかけて気温が高くなれば、夏商材の需要が早まり販売増が見込める。
		衣料品専門店（経営者）	・5月はゴールデンウィークがあり、例年、需要規模が大きい。特に気温と天候に恵まれれば、賃上げがあったこともあり、売上は伸びていくのではないかと期待している。
		乗用車販売店（役員）	・引き続き、安全装置装備車への買換え需要は続くと予想する。
		乗用車販売店（営業担当）	・当社も、3か月先には既存車種の安全面の改良に加え新型車の発売予定もあることで良くなるものと思うが、業界全体では良くなる要素はない。
		住関連専門店（経営者）	・今現在、金利が非常に安く、周囲では分譲住宅がかなり建っている。関連の家具などは波及的に良くなるのではないかと期待をしている。
		その他専門店〔酒〕 （経営者）	・これから暖かくなると飲料水、ビールなどの売上が伸びると考える。
		観光型旅館（経営者）	・今は余り景気が良いという感じは受けないが、2～3か月先の予約状況をみると改善傾向である。全国レベルからみると良くないという状況だが、様々な観光戦略が実を結べば、伸びていくのではないかと考える。
		通信会社（営業部長）	・新商品の発売による需要増が期待できる。
		通信会社（技術）	・特需が設定されており、今までとは別の販売量増加要因がある。
		商店街（事務局長）	・暑い日も増えていることから、季節商材やアパレルは好調であるが、食品などは伸び悩んでいる。朝鮮半島の地政学的リスクが下がることを期待しており、また現在、混乱の極みにある日本の政局も安定していくことで、株価が上向き、消費の活性化につながることを望んでいる。
		商店街（代表者）	・来街客数自体のベースも上昇してきているなかで、特に5月の連休、夏のイベント等を迎えて、消費者のニーズや消費者マインドもかなり上昇してくると思う。また、商店街内の店舗も、新陳代謝が起こり、飲食を中心に魅力ある店舗の開店などがあるように思う。
		一般小売店〔文具店〕 （経営者）	・業界の景気動向に影響のあるような動きはない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・景気が良くなる要素もなく、消費者はますます財布のひもが固くなると予想している。
		百貨店（営業統括担当）	・セールが始まることで、中間層の購買意欲の高まりを期待したいが、動向は厳しいと予想する。一方、インバウンドにより、売上は堅調に推移する。
		スーパー（企画担当）	・青果物の高騰は落ち着いてくるとみられるが、春先に加工食品の値上げが発生しており単価は上昇している。異業種の出店が続くため客の奪い合いは激化し、結果売上の状況は好転には向かないと推定する。
		スーパー（財務担当）	・厳しい競争環境が続き、既存店の来客数増は見込みにくい。
		衣料品専門店（経営者）	・今までの流れを見ていると、景気はこのまま余り変わらないのではないかと予想する。
	衣料品専門店（経営者）	・人材不足がいかに景気に影響してくるか次第である。	
	衣料品専門店（営業責任者）	・気温が高くなりすぎると、年齢の高い客の客足に影響が出るため心配している。客の財布のひもが緩くなっている印象はなく、依然として購買意欲は高くない。	
	家電量販店（副店長）	・エコポイントの特需需要から9年経過し、買換え時期になってくるが、どちらかといえば買換えサイクルが長期化してきている傾向がある。	
	乗用車販売店（従業員）	・今期上期の新車販売台数予想は、前年並み程度と考えている。	
	乗用車販売店（従業員）	・良くなる要素も悪くなる要素もないため、しばらく現況が続く。	

	その他小売 [ショッピングセンター] (副支配人)	・コト、時間の消費は良い方向が続くと見ているが、モノの消費は厳しい状況が続くと見ている。
	都市型ホテル (経営者)	・やはり先行きの予約状況からみると、例年と余り動きがない。先ほど言ったように、単価の動きも良くないので、余り景気が上振れするということはないと思う。
	旅行代理店 (営業担当)	・現在が比較的好調に推移しているため、大きな増加は見込めない。
	タクシー運転手	・5月の連休で出費したこともあり、梅雨で一旦消費が落ち着くが、その後、ピヤガーデンなどによる送迎の利用が増加すると予想する。
	通信会社 (支店長)	・当面、変動要素は見当たらない。
	競輪競馬 (マネージャー)	・消費物価の上昇や生活費の負担増加傾向から、先行きの不透明性を不安視から消費力の鈍化しており景気の上昇は望めない。
	美容室 (経営者)	・やっている事に変化はなく、良くも悪くも変わらない。
	設計事務所 (所長)	・中心部の土地の取引が、高値で取引され始めている。
	商店街 (代表者)	・ネットショッピングの一層の躍進と、IoT、更にはビットコインという新たな資産価値が形成され、第2、第3の流通革命の時代になってくる。リアル店舗を中心とした旧来型の商店街や郊外の大型店含め先が見えない状況となる。
	商店街 (代表者)	・新年度になりいろいろ物が値上がりをしており、その影響が少しずつ出てくるのではないかと思う。
	コンビニ (総務)	・天候や気温に左右されるが、客数の前年回復はいまだ見込めない。辛うじて客単価が増加している部分で持ちこたえているが自助努力では限界がある。
	× 一般小売店 [乾物] (店員)	・地元における夏の祭りについて運営問題が表面化したことは、観光にダメージがあると考える。
	× コンビニ (店長)	・春休み、ゴールデンウィークと来店客数が増えてこない。この増加が見込めない状況だと、この夏の最盛期は期待できそうもない。
	× タクシー運転手	・夏場はお遍路の仕事自体はほぼなくなるが、今の状況を見ていると、繁華街などにおける需要もあるとはいえ、今よりは悪くなると予想する。
企業 動向 関連 (四国)	食料品製造業 (商品統括)	・働き方改革による労働時間の制約・人手不足による給与のアップと合わせ、機械化設備投資が前向きに行われつつある。
	木材木製品製造業 (資材購買)	・取引先の契約状況から第2Q (6 ~ 9月) 後半から少し需要は回復してくるものと見込んでいる。
	電気機械器具製造業 (経営者)	・新規事業が始まり、さらに次の事業も決まっていることもあり、着実に実行できれば「やや良くなる」という方向と判断できる。
	輸送業 (経営者)	・朝鮮半島の戦争状態解決に向けた兆しがある。国内も経済に関する議論を進めることができればもっと良くなる。
	通信業 (営業担当)	・サッカーワールドカップがあり、日本代表が出場することに伴って、放送及びそれに伴う各社のキャンペーンを期待している。日本代表の勝敗次第では期待もできるが、予選敗退などでは「変わらない」か「やや悪くなる」可能性も秘めている。
	公認会計士	・各企業の経営者が、設備投資に前向きになってきている。例えば、いわゆる企業の認定経営者の機関を通じての補助金申請が増えているようであり、そういう観点から、景気は若干良くなるのではないかと判断した。
	農林水産業 (職員)	・現時点でも悪いことから、ここから更に悪くなることは想定していない。現在の政治手法は既に破綻状態にあり、これでは国民はやりきれず、購買意欲にも影響が出ることを心配する。
	食料品製造業 (経営者)	・原材料価格は下がるものがなく、卸価格・小売価格が上がる事も想定できない。
	繊維工業 (経営者)	・地方は相変わらず厳しい様子であるが、都市部では大手企業の業績が堅調であることと、訪日観光客が増加していることなど、全体としては景気は良くなっていく。
	パルプ・紙・紙加工品製造業 (経営者)	・今後は対前年よりは、少し上昇していけると思う。
	鉄鋼業 (総務部長)	・主力造船関連の受注も現在の水準が続くと予想する。
	電気機械器具製造業 (経理)	・得意先からの受注量ならびに将来の発注予測情報によると、特段の変動は見受けられない。また、市場のトピックに関して、注視すべきものはない。
	建設業 (経営者)	・これから2 ~ 3か月先の見通しが良くない。
	建設業 (経営者)	・変化は、今年度の公共事業が発注されてくるため、もう少し先でないと思通せない。

		輸送業（営業）	・一般消費財の動向は天候と密接な関係があることから天候次第である。異常気象により冷夏になった場合は消費者の購買意欲も低下し一般消費財の動向が鈍化する。
		通信業（総務担当）	・変動する要因が見つからない。
		金融業（副支店長）	・経営者と面談するなかでは、短期的な需給動向に対するコメントが少ない。
		広告代理店（経営者）	・人手不足に伴う求人広告は増加傾向にあるが、多くの得意先の販促広告費は削減傾向が続いており全体としては変わらない見込みである。
		-	-
	x	輸送業（支店長）	・原油価格の高止まりと円安による一層の原油調達価格の上昇により軽油価格が高騰する恐れがある。
雇用 関連 (四国)		-	-
		人材派遣会社（営業）	・いまだ人材不足ではあるが、保育園などの受け皿が広がれば、女性の再就職も増加を見込める。さらに、彼女たちが実務経験を活かせる戦力となれば、企業の競争力も上がり、景気もやや良くなる。
		人材派遣会社（営業担当）	・引き続きコールセンターへのニーズが高い。
		職業安定所（職員）	・人手不足による雇用条件の向上が聞こえはじめた。
		求人情報誌（営業）	・人員の充足に関して、解決の材料が見込めないため、景気は大きく変わらない。新卒採用企業では例年以上に苦戦している企業が多く、各社とも採用方法・時期等の見直しを考えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・いい要素はないが、今後2～3か月予測で今より悪くなると思えない。
		職業安定所（職員）	・3月の有効求人倍率は1.57倍で、一昨年7月以降、1.3倍以上が続き、大きな変動がないため、「変わらない」と判断した。
		職業安定所（職員）	・求人や求職者の状況に大きな変化はなく、人手不足の状況は続いており、状況は大きく変わらない。
		民間職業紹介機関（所長）	・企業側が景気の不透明なところもあり、人材確保については積極的に活動をしようとする空気が感じられない。誰かが辞めれば、その人の穴埋めのために採用するというような形で、次のステップのために人材を採用しようとする積極性はない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・政変や国際情勢の変化がどのように影響するかはにわかに判断できないが、ここ数か月間については景気の基調は人手不足を背景にそれほど変化しないものと想定する。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期での人の動きが一段落し、求人数の減少が予想される。
		x	人材派遣会社（営業担当）